

事業団だより

～わたしからあなたへ… まごころ発信～

第140号

令和8年1月1日

特定社会福祉法人
大分県社会福祉事業団

大分市大津町2丁目1番41号
大分県総合社会福祉会館

TEL (097) 552-1316

FAX (097) 552-1094

https://www.oitaswo.jp



新年あいさつ

理事長 銅城 義則

明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。昨年11月に大分市佐賀岡で発生した大規模火災により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。



昨年を振り返ってみますと、日本史上初の女性首相として高市早苗氏が就任され、新たな政治の幕開けを象徴する一年となりました。また、国内外から注目を集めた「大阪・関西万博」が開催され、日本が「未来社会」「国際交流」「共生」を発信する場として、多くの期待と希望を世界に示した年でもありました。

一方、食料品をはじめとした物価の高騰が続く、私たちの施設でも給食をはじめとする日々の生活にかかるコスト上昇がこれまで以上に大きな課題となりました。

そのような中、当法人におきましては、「大分県社会福祉事業団が未来永劫存続し続けることこそが、ご利用者の仕合わせの源泉であること」「ご利用者やご家族の笑顔と健康、働く職員のやりがいこそが事業団の存続、継続するためのそのまた源泉であること」を重視した法人運営を行うため、戦略的な組織及び職員配置体制の構築を進めてまいりました。

本年も、ご利用者の安心・安全な生活の維持と望む生活の実現に向けて、そして地域とのつながりを大切にしながら、地域に根ざした法人運営を進めてまいります。関係者の皆さまには、より一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

特集

○実践報告・実務研究論文 審査結果 P2

○地域公益活動の取り組み状況 P3

○事業団プロジェクト報告 P6



事業団プロジェクト報告



「強度行動障害支援プロジェクト」の取り組みについて

大分県糸口学園支援第一課（成人課）にて強度行動障害支援プロジェクトが発足し、取り組みが4月よりスタートしました。

強度行動障害とは、生まれつきの障害ではなく、周囲の環境や関わりによって現れる状態のことを指します。現在糸口学園はるな寮を中心に取り組んでいるプロジェクトについて紹介したいと思います。

まず、①アセスメントの実施 ②特性の理解（強み弱みの把握） ③日中活動の充実 ④チーム支援（統一支援）の4つに重点を置き、取り組みを始めました。対応するご利用者のアセスメントの見直しを実施し、文字の理解はあるのか、色の理解はあるのか、絵カード、写真の理解はあるのかということの確認を行っていききました。ご利用者とのコミュニケーションの中で、口頭だけで伝わっていると思っていても実は伝わっていないことが多く、何となく行動しているご利用者の方は多くいます。そのため、上記のような理解度チェックに取り組み、ご利用者毎に絵カードが有効、文字が有効であるなどの確認を行いました。

次に特性の理解です。ご利用者は何が得意であり、苦手なことは何か、どのようなことが好きなのか、苦手な刺激はあるのかなど、日々の生活の中で興奮やパニックなどが起こった際に、興奮行動の背景には何があったのかという

ことを職員間で確認していききました。そしてご利用者のことを理解した上で、日中活動を取り入れていききました。これまで出来ていなかった日中活動や個別の活動も、集中して取り組める環境設定や活動グッズの作成により、30分間集中して取り組むことが出来るようになりました。

そして、最後に1番大切になるのがチーム支援です。職員毎に自分のやり方はこうだというバラバラな支援をすることで、ご利用者は混乱してしまい、安心した行動をすることが難しくなるため、どの職員が関わっても同じ支援が必要となります。そのために定期的にプロジェクト会議を開催し、統一支援の見直しやアプローチの方法を検討し、情報共有を密に取り組んでいるところです。

今後もご利用者にとって安心して充実した生活を送ることができるよう、適切なアプローチをしていくと共に、職員もどう対応して良いのか分からないという状態ではなく、これをやってみよう、このアプローチをしてみようというような、チームとしてやりがいのあるプロジェクトにしていきたいと思っています。



～将来の福祉人材発掘・創出プロジェクト～

このプロジェクトは、福祉教育の実施や職場の体験などを通して長期的視点で福祉を志す人材を発掘・創出するためにさまざまな取り組みを行っています。

今年度から福祉に関心ある学生アルバイトの募集を行い、夏休みには23名の学生が参加してくれました。アルバイト学生には、ご利用者支援の補助などを行っていただき、福祉に触れて知っていただくことを目的としています。

大分県なおみ園

大分県なおみ園には3名のアルバイト学生が来ました。

アルバイトの内容は、主に療育活動の補助と、ご利用者とのコミュニケーションが中心です。こどもたちもすぐにアルバイト学生に慣れ、グループワークやお絵描き、ボール遊びなどを一緒に楽しみました。

参加学生からは「こどもデイサービスの雰囲気とやりがいを知れた」「こどもたちと楽しく過ごせた」といった声が聞かれました。

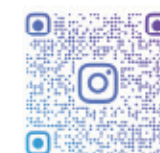
こどもデイサービス パンピ ダンポ アルバイト様子



編集後記

新年あけましておめでとうございます。皆さんは今年の目標は決まっていますか？私は昨年の目標「未知へのチャレンジ」を無事に達成することができました。今年は更なるチャレンジに向けて準備を始めているところです。

みなさんの今年の目標が達成できることを応援しています。



SW01316

すまいる拡大マルシェ

地域総合支援センター

地域総合支援センターでは、地域共生社会の実現を目指し、住民の皆さまとの交流を深める取り組みとして、毎月「すまいるマルシェ」を開催しています。地域の中で気軽に集い、つながりを育む場をつくることを目的として始めたこのマルシェは、地域公益活動の一環として定着し、回を重ねるごとに多くの方に親しんでいただけるようになりました。また、年3回は規模を広げた「拡大マルシェ」を実施しており、11月開催の第2回拡大マルシェは盛況のうちに終了しました。

当日は地域の事業所や飲食店、近隣の農家さんにご協力いただき、バリエーション豊かなブースが並びました。当センターも出店し、会場は開始直後から多くの来場者でにぎわいました。飲食ブースのほか、障がいのある方が製作した温かみのあるハンドメイド雑貨、療法士等による身体を使った「お題ビンゴ」、会場を盛り上げた「かき氷早食い大会」に加え、工房大福のパン生地を使ったピザパンづくり体験も大人気でした。親子連れの参加が多く、好きな具材を自由に選んでオリジナルのピザを作り上げる様子はとても微笑ましく、会場全体が和やかな空気に包まれていました。地域の方々と障がいのある方が自然に混ざり合い、笑顔で交流するひときは、地域共生社会の実現に向けた大切な場となりました。

「すまいるマルシェ」は、地域の誰もが垣根を越えて関わり合い、支え合える関係づくりを大切にしています。来場された方からは、「毎回楽しみにしている」「普段関わらない方とも話せてうれしい」といった声も寄せられ、マルシェが地域にとって温かな交流の場として根づきつつあることを実感しています。

これからも地域のみなさんとなつなかりを深め、だれでも気軽に立ち寄って楽しめるマルシェを続けていきたいと思ひます。より多くの方に参加していただけるよう工夫を重ね、魅力あるイベントづくりに取り組んでまいります。



令和7年度 第48回社会福祉事業団職員 実践報告・実務研究論文 入選!!

優良賞
受賞

障害者就業・生活支援センターに おけるKさんの意思決定支援

作成者から
一言



地域生活支援センターはぎの

(代表) 主 査 高松 政義

これまで障害者就業・生活支援センター事業や、施設入所や就労系福祉サービスなどの支援の中で、本人の意思決定が非常に重要だと感じていました。法人の理念・基本方針の一つである「利用者主体の支援」にあるように、支援者は本人が自ら意思決定し行動する権利の尊重をしなければ、納得感が得られず、選択した責任を感じず他責傾向の結果になると考え、「意思決定」が就労支援においても重要と考えました。「障害者就業・生活支援センターにおけるKさんの意思決定支援」の内容として重視した点は、「丁寧なアセスメント」特



(左) 大島 渉 (中) 高松政義 (右) 石上 勇亮

性に応じた関わり方や支援者の距離感や支援方法などのバランス、「状況の変化に対応する想像力や対応力を学び実践すること」です。そして、緊急性の度合いに応じながら本人の意思と支援とのバランスをとりながら支援していきました。

今回はKさんのケースでしたが、支援者は相談者(ご利用者)に合わせ個別支援をする必要があり、しっかりと一人一人と丁寧に向き合っていく必要があると思ひます。

家族とのかけがえのない 時間を取り戻す!

～リハビリテーションチームの取り組み:
中間報告～

作成者から
一言

大分県のぞみ園 機能維持・向上委員会
代表 大島 渉

令和6年度に行ったリハビリテーション委員会では、多職種連携によるリハビリ強化を推進する方針が示され、問題点の明確化やゴール設定、情報収集・共有方法の整理が課題となりました。そこで、委員会で作成したリハビリ介入シートを基盤に実践結果を可視化する必要性を感じ、本研究を企画しました。対象者は在宅生活を希望し、看護師・リハビリ職・歯科衛生士・管理栄養士・生活支援員・サービス管理責任者が専門的視点から評価・プログラムを行い、日常生活の質向上を目指しました。取り組みは継続中であり、過程を示すことに意義があると考えています。得られた知見として、地域移行が義務化される中、経験値の蓄積なくして実現は困難であることが明らかとなり、我が国では障がい者の地域移行が依然として進んでおらず、本研究を通じて多職種連携の実践的知見を共有し、地域移行支援の一助となることを期待しています。

佳作
受賞

いってみよう! やってみよう

～社会性向上プロジェクトを通して
見てきたもの～

作成者から
一言

大分県糸口学園
主任支援員 石上 勇亮

今回の論文では、児童入所施設において、自主性や主体性を育み、また将来においても必要な能力の獲得ができるようにしていく取り組みとして「社会性向上プロジェクト」と銘打ち、その取り組み内容と効果、取り組み内で発見された課題、今後について述べています。

「社会性向上プロジェクト」の内容としては、①身の回りの自立に向けた取り組み②自立した生活に向けた取り組み③社会のルールの遵守に向けた取り組みを軸として、生活面(掃除、洗濯、整理等)をポイント制で競うイベントや、自分達だけで公共資源を使い外出する体験、地域警察の方からの交通ルールや犯罪防止のための研修を受講することなど、将来の地域移行に向けた力を養うことを目的に取り組みました。結果としては、児童一人ひとりに自主性や自発性、選択肢の少なさがあり、今後伸ばしていくべき課題が見つかった一方、自分の自由な選択ができることから、課題行動の減少が見られた児童もいて、その相乗効果で寮内の生活面の向上につながったものになりました。現在は児童の自主外出ができるように環境を整備し、単独外出をおこなえる児童も増えてきており、将来に向けて必要な力の獲得をしやすいようになってきています。

第2回 事業団フォトコンテスト テーマ「幸せの瞬間」



大分県糸口第二厚生園
タイトル「日常」

理事長賞



地域生活支援センターはぎの
タイトル「小さな手で
つかんだ達成感」

広報担当理事賞

地域公益活動の取り組み状況



じぎょたんカップ

大分県糸口通勤寮

大分県糸口通勤寮では地域公益活動の一環として、ご利用者と地域住民の皆さんとの交流を目的に「じぎょたんカップ（ソフトバレーボール大会）」を開催いたしました。日頃より地域とのつながりを大切にしている私たちにとって、今回の催しはご利用者の交流の場を広げるだけでなく、地域の方々に施設の取り組みを知っていただく貴重な機会となりました。

大会当日は、ご利用者・職員チームと地域住民の方々によるチームに分かれて試合を行い、和やかな雰囲気の中で試合が進みました。競技としての勝敗だけではなく、ボールを追いかけて声を掛け合う場面や、得点が入るたびに自然と笑顔が広がる様子など、互いに励まし合う姿が多く見られました。スポーツを通じて自然に距離が縮まり、ご利用者が普段以上に積極的にコミュニケーションを取る姿も印象的でした。

また、地域の方からは「利用者の皆さんがとても生き生きとプレーしていて元気をもらえた」「施設の活動を身近に感じることができた」といった温かい声をいただき、職員にとっても大きな励みとなりました。ご利用者にとっても自分の力を発揮し、地域住民の一員であるという自覚を持つことができ、日常生活では得がたい達成感を味わう貴重な機会となりました。

試合の合間や大会後には、試合の振り返りや普段の生活についての会話が弾み、地域の方とご利用者がより深く交流する様子も見られました。このような日常の延長線上にある自然な対話こそが、地域福祉の促進や相互理解の基盤になると考えています。

今後も当施設では、スポーツをはじめとした多様な行事を通じて、地域とともに歩む施設づくりを進めていき、利用者が地域社会の一員として参加し、地域全体で共生する環境づくりに引き続き取り組んでまいります。最後に今回の大会にご参加・ご協力くださった皆さまに、心より感謝申し上げます。



配食サービス

大分県糸口厚生園

大分県糸口厚生園では毎週木曜日、地域の高齢者の方々に向けて、「配食サービス」を行っています。旬の季節の食材を使い、施設内で調理した手づくりのお弁当を、温かい状態でご自宅にお届けしています。味を楽しんでいただけるよう、栄養バランスにも配慮した献立作りを行っています。

また、サービスご利用者の健康状態に応じて減塩等の対応も行い、安心して食事を楽しんで頂けるようにしています。食事と共に、「本日の献立」「スタッフの一言コメント」「食材の豆知識」等を記載した小さなチラシを添えてお渡ししており、お食事とともにちょっとした楽しみを感じていただけるように工夫しています。

お届けの際には、施設職員がご利用者様のご様子をさりげなく確認し、体調の変化等に気づけるようにしています。この見守りの役割は一人暮らしの方に安心を届ける大切な機能となっており、地域の安全な暮らしにもつながっています。料金も一食300円（税込み）とご利用いただきやすい価格となっており、生活に無理なく取り入れやすいサービスとなっています。

サービスをご利用いただいている方からは「いつもありがとうございます。美味しく頂いています」「季節に応じた食材を使っているのが嬉しいです。配達もいつも笑顔でありがとうございます」といった温かい言葉を頂いています。こうした声は職員だけではなく、配達を手伝う施設利用者の方にとっても、大きな励みとなり、サービスの向上の力となっています。これからも地域のみなさまが食事を楽しみ、安心して暮らせる環境を支える場として心のこもった配食サービスを丁寧に続けていきたいと考えています。



～ 配達の様子 ～



～ 本日の献立 ～



～ ご利用者への受け渡し ～

